

平成30年10月15日(月) 15:00-17:00

場所 学術会議5階会議室

出席者:岡、市川、延与、大塚、駒宮、柴田、杉立、田村、中畑、野尻、山

崎 Skype出席:浅井、横山

欠席:相原、宇川、桜井、関口、永江、村山、山内

1. 前回議事録議決承認した内容について、正式に承認した。

今後の議事録承認については委員長に一任という手続きとする。

具体的には議事録案をメールで回議して意見を聞いた上で委員長に一任する。

2. 素核分野のマスタープランについて

マスタープラン2020の募集・策定について田村委員長から説明があった。

・コミュニティの合意と指示された提案であること。提案者の範囲が拡大され提案数が増えると予想される。

・ハイパーカミオカンデ、ハイルミLHCなど、マスタープランに含まれていない大規模計画の取り扱いについて質問が出された。

・実施中（実施見込み）の計画について、提案不要であるか質問が出された。

・融合領域の設定と評価方法について説明があった。

・ヒヤリングの件数は提案数に比例すると予想されるが、素核では提案時にコミュニティ内で絞込みを行っている点がどのように影響しうるか議論した。

・ヒヤリングでの評価ポイントなどの情報を事前に提供してほしいという意見が出された。

・学術会議で重点計画に選ばれた計画以外にも、ヒヤリングに呼ばれた計画は文科省のロードマップ策定の候補となりえる。マスタープランとロードマップでの選定課題が一致しない点について、学術会議では学術的意義の観点で選定されるのに対して、文科省の選定は予算規模、実現可能性、緊急性、社会的観点なども含めて判断されるため、選定計画が必ずしも一致するわけではないとの説明があった。

・重点計画の継続について：

認められた計画は3期9年まで継続（延長）を認める。途中での入れ替えは可能。

3期9年経過した計画はリセットし新規に提案する。

・関連して文科省のロードマップ策定について説明があった。文科省の方針は文科省から提供された資料に詳細が記載されている。

・素核分野での学術会議とコミュニティの関わり方について：提案計画の議論はコミュニティ主体で行われているが、学術会議の方針をどのように反映させるか、情報提供も含め学術会議の主体的活動については検討課題。分野の既存計画にのらない新しい課題の新規

提案をどのように考えるか、現行のプロジェクトとの関係や位置づけに関して、様々な意見が出され議論した。

可能性のある小さい課題について、若手からの企画提案を奨励など、各コミュニティ（核物理、高エネルギー）に働きかける。具体的な方策などについては各コミュニティで議論する。

- ・以上の点について、今後の情報を随時提供していくこととなった。

素核大型計画シンポジウム：

前回と同様のマスタープラン提案のためのシンポジウム（素核分科会主催）を開催することを決定。スケジュールや盛り込む内容について議論した。各コミュニティで提案予定の計画について説明してもらう予定。

シンポジウム提案のための準備：

日程調整（2月前半）、プログラム・講演者を決定し、早い時期に開催提案と実施承認。幹事団4名、高エネ委員長、核物理委員長が世話人としてプログラム作成。

午前10:00～午後開催（昼休みに分科会）

発表資料を学術会議の記録として残す方針。スライドを集めたものを公開。3部で査読あり。

3. 基礎科学シンポジウムについて

物理学委員会主催、物理学会との共催で公開シンポジウムを開催するとの報告があった。

プログラム、講演者など詳細は配布資料のとおり。

ポスターを作成。送付・宣伝先はメディア・官公庁など。東大・研究所などの広報室と相談する。

4. その他

ILC 検討委員会について報告があった。

文科省に有識者会議に出された見直案について、現在、学術会議の検討委員会で評価（調査・審議）している。

資料1：マスタープラン研計分科会資料

資料2：文科省ロードマップ資料

資料3：素核大型計画シンポジウムの提案について

資料4：学術会議基礎科学シンポジウム

資料5：ILC 検討委員会

資料6：前回議事録案